

がんばってます！（二）

下総土人形・張子人形作者 松本節太郎さん

全国郷土玩具作家の会 百歳の記念個展開催
高梨東道

「おもしろ」発行
159号（1415年1月20日）
159号

一 百歳記念個展と 資料室開催

下総の玩具製作者として周知の松本節太郎氏の百歳を記念した個展が、九月八日（土）二十三日（火）にわたり千葉県柏市のギャラリー・ヌーベル（柏市旭町四一七一、電話04-7146-6800）の二階和室を会場として開催された。



写真1 百歳でなお豊饒たる松本節太郎さん

会場を提供しているギャラリー・ヌーベルの鈴木昇社長は地域文化振興会の中核的存在で、下総玩具の大いなる支援者の一人。現在、節太郎さんがもっとも信頼を寄せる人でもある。集玩の対象を新玩から古玩や中古玩具に移した私にとって、松本節太郎さんに限らず、現在制作されている郷土玩具作家の物までは手が回りかねる状況下にあっ

たが、節太郎宅には電車で三十分という地の利もあり、千葉県には数少ない郷土作家と言ふこともあり、都合三回ほど訪問し、お話を伺い、人形を求めた記憶があり、その動静は常に気にかけてきたつもりである。

そうした関わりもあって、今回の「百歳の個展」開催の報に接し、心から祝意を表する次第である。

また、詳細は未定ではあるが柏玩具の資料室の整備も進められているという。百歳の高齢でもおもちやを作り続け、個展を開けるということ自体希有のことであろう。この機会に節太郎さんの人となりについて振り返ってみることも無駄ではあるまい。

二 節太郎さんの プロフィール

この人ほど多くの玩具をこの世に送り出しながらその素顔が見えない人を見たことがない。

自ら変わり者を自称するように、現在では珍しい職人タイプの人でもある。反

骨の人と言っても良い。メディアに登場することはほとんどないし、写真など絶対と言うほど撮らせてはくれない。

自分の作る人形は郷土玩具と呼んで欲しくないと嘯き、玩具製作者は万葉集の詠み人知らず的な存在で良いなどと学識の片鱗も見せる。また、喰うために玩具を作ってきたと平気で言っている。一見ぶっきらぼうなこの態度がポーズなのかテレから来るものなのかまだによく分からない。

一切のてらいを排除し、純粹に玩具を作り続けてきた姿は尊いと思うし、新たな人形作りへ挑戦する意欲には目覚ましいものがある。

今後、こういう人は出てこないだろうし、作品はもろろんのこと人物そのものに大きな魅力を感じた人でもある。

いささか旧い話で恐縮だが、二十五年ほど前のことである。郷土玩具の例会に出席した折の帰り道をよ



写真2 ひねりの土人形